



**2021年3月期 第2四半期
決算補足説明資料**

2020年 10月30日（金）

**ウェーブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
（東証一部）**

決算概要

(単位：百万円)

	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	2021年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減率	2021年3月期 第2四半期累計 (予想)	達成率	2021年3月期 通期 (予想)	進捗率
売上高	14,903	14,981	+0.5%	14,000	107.0%	29,000	51.7%
営業利益	1,004	960	△4.4%	850	113.0%	1,600	60.0%
経常利益	985	925	△6.1%	840	110.1%	1,580	58.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	694	622	△10.5%	550	113.1%	1,000	62.2%
1株あたり 当期純利益(円) ¹	72.88	64.04	-	56.61	-	-	-
EBITDA ²	1,521	1,459	-	-	-	-	-

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2020年3月期第2四半期は9,534,271株、2021年3月期第2四半期は、9,715,838株です。

2. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

売上高 14,981百万円

- 前年同期比+0.5%、上期計画比+7.0%、
- アドバンステクノロジー事業における拡散板の販売、および、マテリアルソリューション事業におけるホームセンター向け販売は引き続き好調。一方、インテリア事業における中級品壁紙の売上高が大きく落ち込んだ
- 新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけ低迷していた自動車関連向けは一部市場において回復傾向。建設関連および農業関連は引き続き苦戦

営業利益 960百万円

- 前年同期比△4.4%、上期計画比+13.0%
- 新型コロナウイルス感染拡大に端を発する原油価格、ナフサ価格の下落により当社製品の主要材料である樹脂材料価格が低位で推移
- 営業利益率は、アドバンステクノロジー事業において相対的に利益率の高い製品の販売減少等により大幅に低下したものの、マテリアルソリューション事業の利益率改善がカバーし、連結全体では前期比微減となった
(前第2四半期累計期間：6.7%、当第2四半期累計期間6.4%)

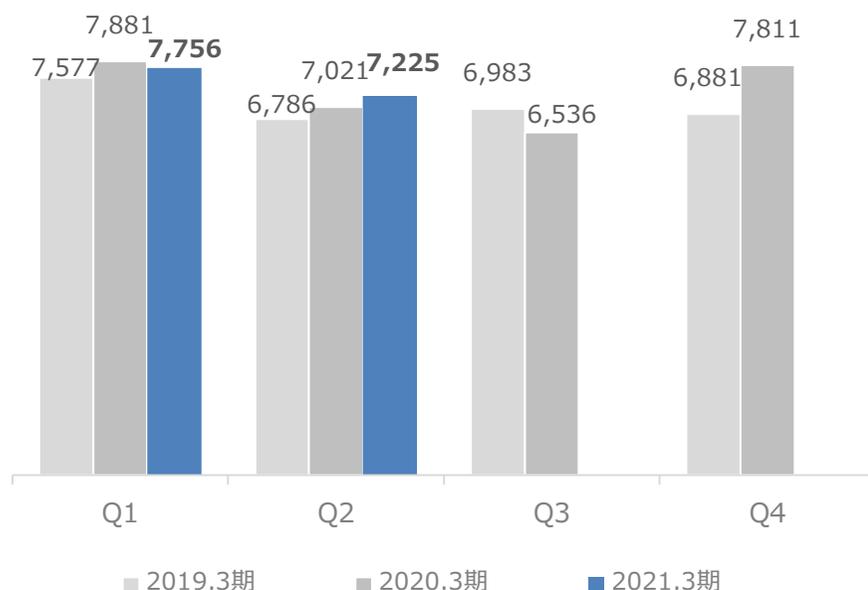
■ 新型コロナウイルス感染症の影響と対応

- 営業部門、事務部門でのテレワーク、生産部門での『ゾーン分け』、社内事業所間の移動禁止や出張制限を含む各種対策を継続するとともに、「New Work Styleプロジェクト」を発足し、『ウィズ・コロナ』、『ポスト・コロナ』に対応する働き方への変革に注力
- 通常であれば、10年以上を掛けて起こるであろう社会変革が、数ヶ月という短期間に起こっている新型コロナウイルス感染拡大に伴う『パラダイムシフト』に対して、いかに的確に、素早く、自己改革出来るかが最も重要なポイント
- 新型コロナウイルス感染拡大時における建設工事の中断、自動車メーカーの工場操業停止や、農業分野での投資意欲の減退等の影響を受け一部の製品分野では売上高が大幅に減少するも、経済活動の再開により自動車向け販売は中国市場を中心に徐々に回復
- 新型コロナウイルス感染対策製品として特需が発生した透明ビニールシートを代表とする感染対策製品は、防災機能を有する製品の上市等により更なる需要の取り込みに注力
- また、外食機会消失の反動等で売上が伸びた食品包装容器向けシート販売や、巣籠り消費需要や換気意識の高まりにより、ホームセンター向け製品の販売は例年の需要期（3月後半～8月）後も好調に推移
- グループ全体の業績としては、事業対象市場が分散していることが功を奏し、期初計画を達成

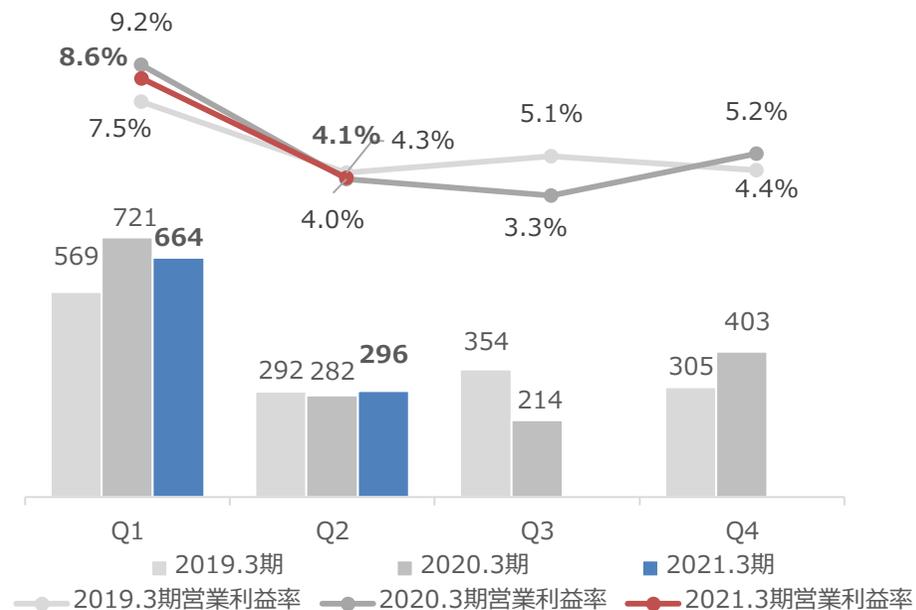
売上高・営業利益の四半期ごとと3か年推移

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



- 第1四半期：新型コロナウイルス感染拡大の影響から建設工事向けや自動車関連向け販売等は苦戦するも、前年同期から大幅な落ち込みはなく着地
- 第2四半期：売上高および営業利益は前年同期を超えて推移。売上高においてはアドバンステクノロジー事業（前年同期比+296百万円、+30.3%）、営業利益においてはマテリアルソリューション事業（前年同期比+59百万円、+32.0%）が貢献
- マテリアルソリューション事業が、前期に新たに導入し、会計処理上、第3四半期のみ引当計上（約75百万円）し、同四半期の営業利益の落ち込みの主要因の1つとなった従業員のインセンティブプランは、今期より四半期毎に業績に基づき引当計上を行う仕組みに変更

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2020年 3月期末	2021年3月期 第2四半期	増減	概要
流動資産	16,420	16,191	△ 228	
現預金	2,367	2,917	+549	
営業債権	7,406	6,913	△ 492	
棚卸資産	6,345	6,083	△ 261	
その他	300	276	△ 23	
固定資産	12,724	12,817	+93	
有形・無形固定資産	11,382	11,454	+71	
その他	1,342	1,363	+21	
資産合計	29,144	29,009	△ 135	

負債・純資産	2020年 3月期末	2021年3月期 第2四半期	増減	概要
負債	17,066	16,334	△ 732	
営業債務	4,335	4,233	△ 102	
有利子負債	7,992	7,594	△ 397	借入金・社債の返済
退職給付に係る負債	2,232	2,279	+47	
その他	2,507	2,227	△ 279	
純資産	12,078	12,675	+597	
株主資本	11,940	12,546	+605	当期純利益の増加+622 配当金△143
その他	137	128	△ 8	
負債純資産合計	29,144	29,009	△135	自己資本比率 41.3%→43.6%

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	2021年3月期 第2四半期累計 (実績)	増減	概要
税金等調整前当期純利益	1,016	923	△ 92	
減価償却費	517	499	△ 17	
負ののれん償却額	△ 18	-	+18	負ののれんは前期で償却終了
退職給付引当金	66	43	△ 23	
運転資本増減	338	585	+247	
法人税等支払額	△ 206	△ 494	△ 288	
その他	20	△ 116	△ 137	
営業キャッシュ・フロー	1,735	1,440	△ 294	
固定資産の収支	△ 352	△ 461	△ 109	
投資有価証券の収支	95	5	△ 90	
その他	0	△ 3	△ 3	
投資キャッシュ・フロー	△ 256	△ 460	△ 203	
フリーキャッシュ・フロー	1,478	980	△ 497	
借入金・社債の収支	△ 289	△ 397	△ 108	
ストックオプション行使による収入	1	124	+123	
配当金の支払額	△ 134	△ 143	△ 9	
その他	△ 20	△ 19	+1	
財務キャッシュ・フロー	△ 442	△ 436	+6	

株主還元

基本方針

- 配当性向：20%から30%を目安に、安定的な配当を実行・維持する

2021年3月期 配当

- 第2四半期末、期末でそれぞれ1株あたり15円(通期30円)
- 配当性向は**29.5%**

	1株あたり配当金(円)		
	第2四半期末	期 末	合 計
2020年3月期(実績)	15円	15円	30円
2021年3月期	15円	15円 (予想)	30円 (予想)

【参考】

	負ののれん償却額控除後の 当期純利益	年間配当額	負ののれん償却額の 影響を考慮した 配当性向 [※]
2018年3月期(実績)	1,206百万円	28円	23.1%
2019年3月期(実績)	1,040百万円	28円	26.2%
2020年3月期(実績)	1,090百万円	30円	26.4%

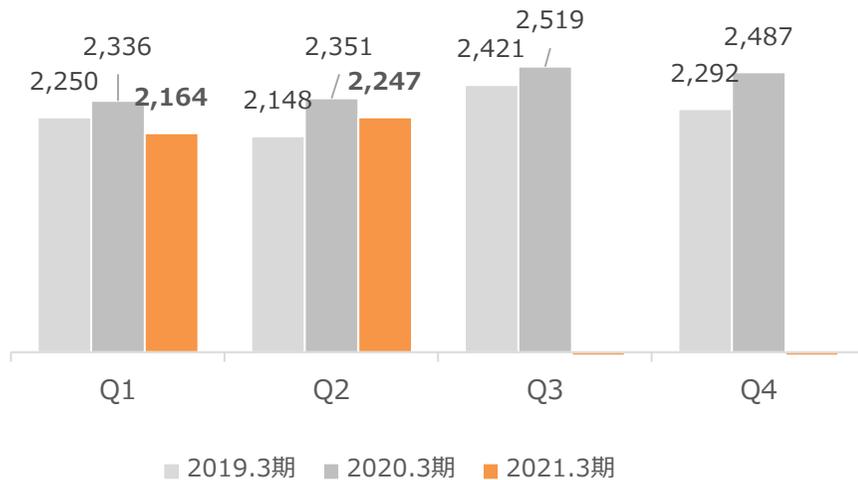
※ 2020年3月期までの配当性向は負ののれん償却額の影響を考慮し下記にて算出しております。なお、負ののれんは2020年3月期に償却が終了しております。
 配当総額 / (親会社株主に帰属する当期純利益 - 負ののれん償却額)

セグメント別情報

(単位：百万円)

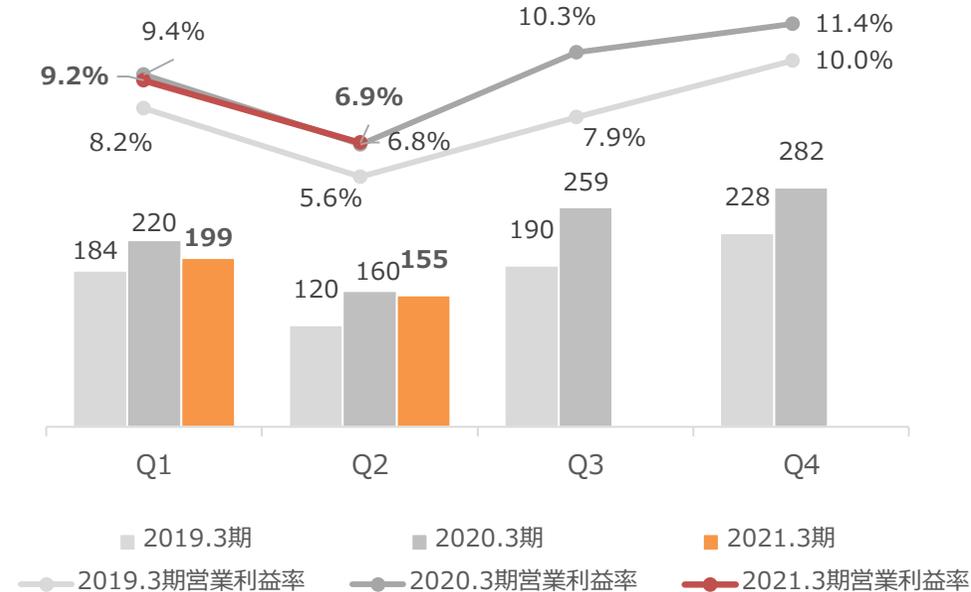
	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	2021年3月期 第2四半期 (実績)	前年同期比 増減	前年同期比 増減率
売上高	14,903	14,981	+78	+0.5%
インタリア	4,687	4,412	△ 274	△5.9%
マテリアルソリューション	8,697	8,570	△ 126	△1.5%
アドバンステクノロジー	1,819	2,210	+391	+21.5%
その他	△ 300	△ 211	-	-
営業利益	1,004	960	△ 43	△4.4%
インタリア	381	355	△ 26	△6.8%
マテリアルソリューション	742	838	+95	+12.8%
アドバンステクノロジー	126	22	△ 104	△82.4%
その他	△ 247	△ 255	-	-

売上高



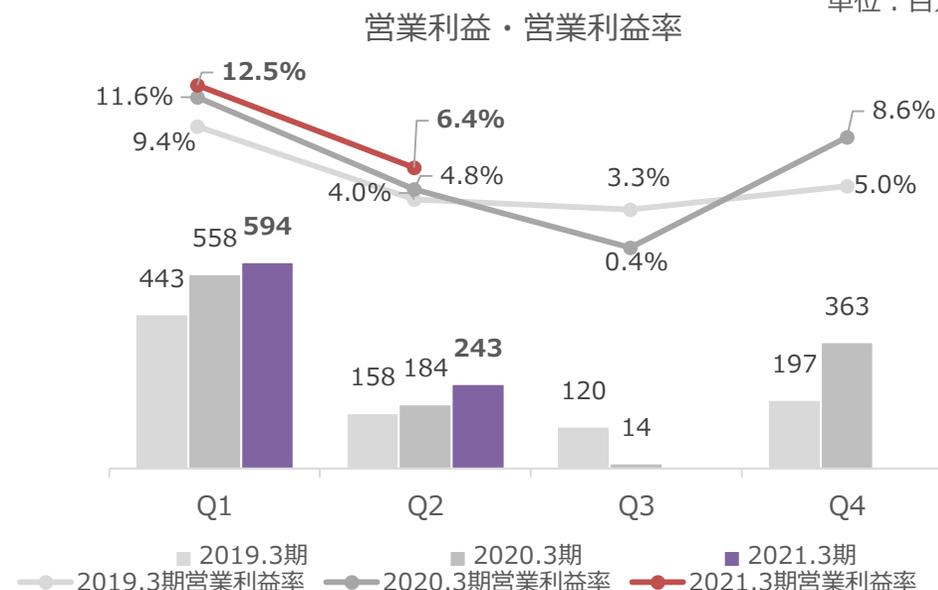
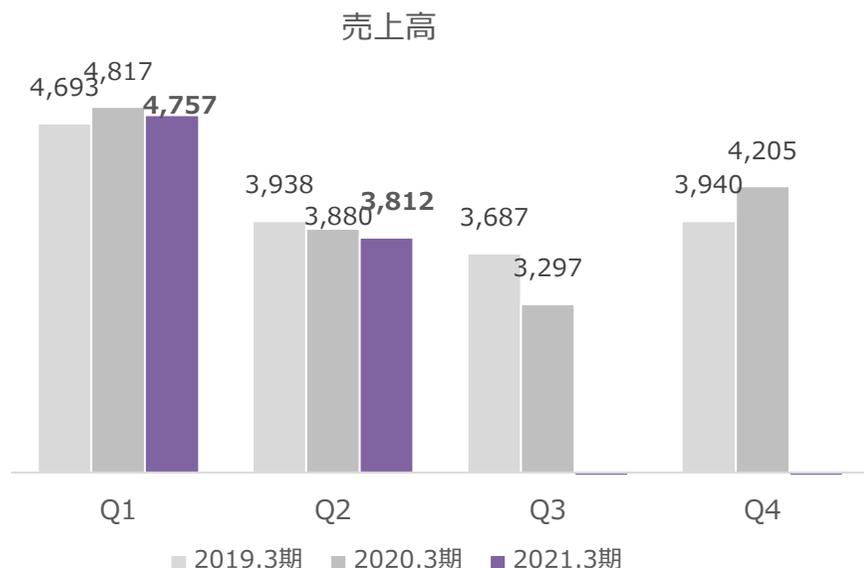
営業利益・営業利益率

単位：百万円



- 2020年4～8月における業界全体での塩化ビニル樹脂系壁紙の出荷数量は、新型コロナウイルス感染症の影響等により前年同期比△9%（量産品△5%、中級品△14%）と低調に推移したが、壁紙業界シェアトップである（株）サンゲツとの従前からの取り組みもあり、2020年4月～9月の同社向け販売数量は前年同期比△2%（量産品+1%、中級品△11%）を確保できた
- （株）サンゲツ向け売上高（金額ベース）は前年同期比△6%。これは、機能量産品壁紙の市場浸透により量産品の売上高は前年同期比△1%と健闘したものの、販売単価の高い中級品が振るわず売上高で△14%と大きく減少したため
- 売上高および営業利益は前年同期比減少となるも、期中において原材料価格が低位で推移したこと、加えて製造経費削減努力により営業利益率は前期同等に（前第2四半期連結累計期間：8.1%、当第2四半期連結累計期間：8.1%）

単位：百万円



リビングソリューション：

- 新型コロナウイルス感染拡大を背景にした巣籠り需要や換気意識の高まりにより、ホームセンター向けの家庭用農園芸製品や張替用防虫網は引き続き好調。サッシメーカー向け防虫網も堅調に推移

ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション：

- 建設工事の中断や各種イベントの中止等により関連製品の販売が大幅に減少。経済活動は再開したものの、自粛期間中に滞留した流通在庫解消に時間を要し、引き続き苦戦。飛沫感染防止対策品として特需が発生した透明ビニールシートの需要は落ち着きつつあるが、新たに防災機能を有する製品を上市し、更なる需要取り込みを狙う

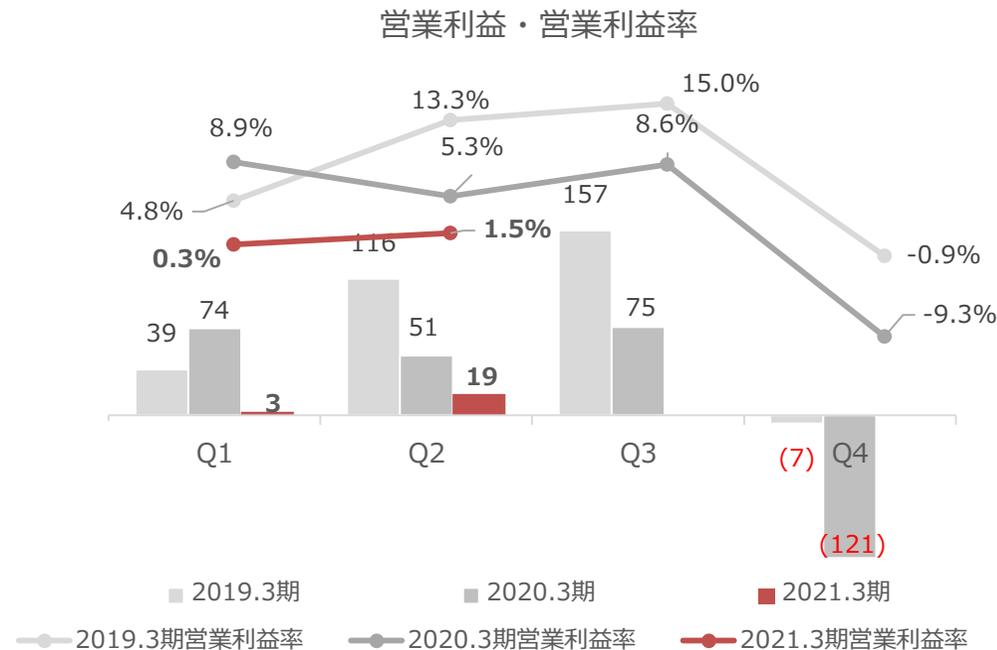
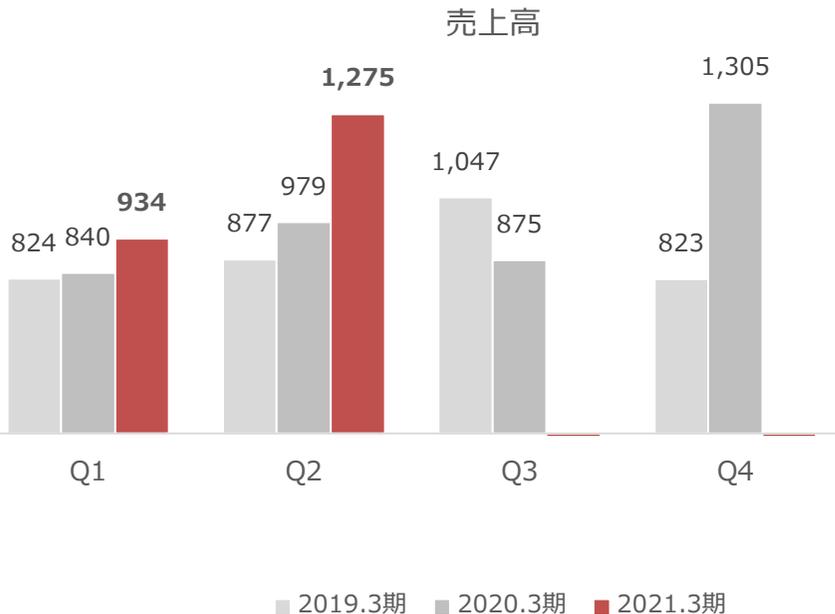
パッケージングソリューション：

- ミルクポーションは外食需要の大幅減少から厳しい状況が続く。一方、冷凍食品やテイクアウト向け食品容器や、健康意識の高まりからヨーグルト容器向け販売が好調に推移。生産体制の見直しおよび増産により利益率が改善

アグリソリューション：

- 長梅雨等による天候不順に加え、学校給食、ホテル、飲食店における農作物の需要減少等による先行きの不透明さから、生産農家による農業資材に対する投資控えが続き苦戦

単位：百万円



金属調加飾フィルム：

- 自動車向け販売は4月を底に前年同期比80%程度まで回復。中国自動車市場における売上高は、新型コロナウイルス感染状況の改善や中国政府の支援策によりいち早く回復し、前年同期比プラスで推移。インド・東南アジアおよび国内市場は第2四半期後半より徐々に復調傾向。欧米市場においては案件立ち上がりの遅れや販売数量減少等により苦戦

PMMA/PC2層シート：

- 売上高、営業利益ともに前期を大幅に下回り、営業利益はマイナスで着地
- スマートフォン筐体向けについては、中国競合メーカーによる廉価製品の拡大していること等の状況を鑑み、撤退を決定
- 一方、相対的に利益率の高い自動車用ナビゲーションシステム用途において、新規案件獲得等により順調に推移

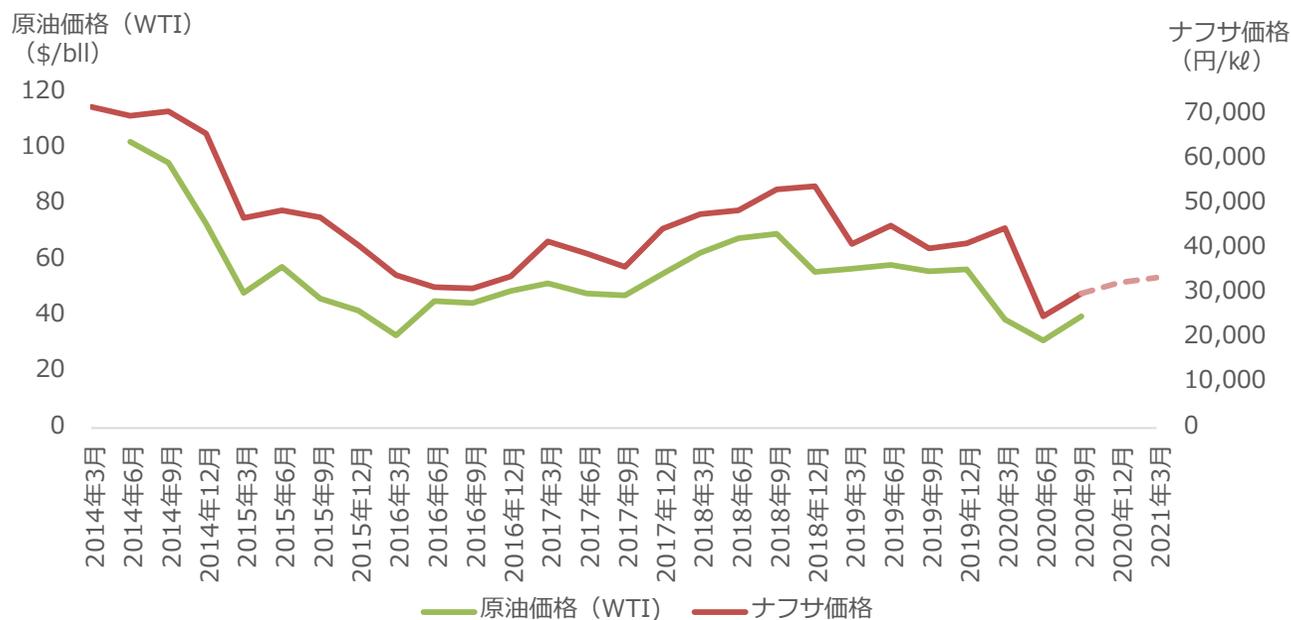
その他：

- ディスプレイ用拡散板は引き続き好調に推移し、売上高増加に貢献

今後の見通し

- 通期予想は売上高、営業利益ともに期初計画を据え置く
- 経済活動が徐々に再開されたことにより景気回復の兆しが見られるものの、新型コロナウイルス感染再拡大に対する懸念は大きく、依然として先行きは不透明な状況が続く
- 国産ナフサ価格は2020年4月～6月の25,000円/kℓを底値に2020年7月～9月平均は30,200円/kℓと、中国経済の復調等を受け徐々に上昇し、今後31,000円～35,000円程度で推移すると予想
- なお、今期事業計画におけるナフサ価格前提も据え置く（2020年1月～3月の国産ナフサ価格の平均値44,800円/kℓをベースに、45,000円/kℓの設定）

原油とナフサの価格推移



本資料における見通しは、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。
本資料に記載されている内容・写真・図表等の無断転載を禁止します。